

2012年(平成24)7月

カルメル
霊性センターニュース



2012年7月

278号

目次

特集

教皇ベネディクト十六世の

265 回目の一般謁見演説(3) ・ 1

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 3

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 1

年間購読(郵送)のご案内・・・・・・・・ 5 2

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・ 5 3

特 集

教皇ベネディクト十六世の265回目の一般謁見演説（3）

「リジューの聖テレーズ」について

2011年4月6日（水）午前10時30分から、サンピエトロ広場で、教皇ベネディクト十六世の265回目の一般謁見が行われました。この謁見の中で、教皇は、2011年2月2日から開始した「教会博士」に関する連続講話の第8回として、「リジューの聖テレーズ」について解説しました。以下はその全訳です（原文イタリア語）。（カトリック中央協議会 司教協議会秘書室研究企画訳）（2011.4.7）

※ 霊性センターニュース5月号～9月号に連載中です。

「ご降誕祭の恵み」から10年後の1896年、「復活祭の恵み」が訪れました。それは、イエスの受難と深く結ばれた彼女の受難の始まりとともに、テレーズの生涯の最後の時期を開始します。それは身体の上での受難でした。彼女は病気にかかり、病気は深い苦しみを通して彼女を死に導きました。しかし、それは何よりも魂の上での受難でした。それはきわめて苦しい「信仰の試練」（『自叙伝』：Ms C, 4v-7v）を伴ったからです。今やテレーズは、イエスの十字架のもとに立つマリアとともに、英雄的な信仰を生きます。この信仰は、魂の中に忍び入る暗闇の中の光のようなものでした。カルメル会修道女テレーズは、現代世界のすべての無神論者の救いのために、自分がこの大きな試練に遭っていることを自覚していました。彼女はこの無神論者を「兄弟」と呼びました。それゆえ、彼女はますます深く兄弟愛を生きただけでなく（8r-33v）。この兄弟愛は、共同体の姉妹、霊的兄弟である宣教者、司祭とすべての人、とくにもっとも遠く離れたところにいる人に向けられました。テレーズは真の意味で「すべての人の姉妹」です。彼女の優しいほほえみに満ちた愛は、深い喜びの表れです。彼女はこの喜びの秘訣をわたしたちに示してくれます。

「イエスよ わたしのよろこび

それは あなたを愛すること！」（『詩』：P 45/7 [『テレジアの詩』伊庭昭子訳、中央出版社、1989年、286頁]）。

聖テレーズは、このような苦しみの最中で、日々の生活のもっとも些細なことの中から、もっとも大きな愛を生きながら、教会の中心で愛となるという召命をまっ

うしました（『自叙伝』：Ms B, 3v〔前掲邦訳、289頁〕参照）。

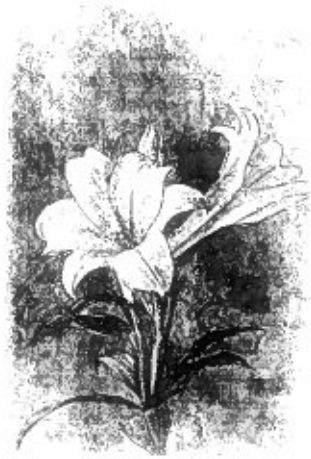
テレーズは1897年9月30日の晩に亡くなりました。手にした十字架を見つめ、「わが神よ、わたしはあなたを愛します」という単純なことばを唱えながら、聖女が述べたこの最後のことばは、彼女の教え全体と、その福音の解釈を解く鍵となるものです。彼女が最後の息で言い表した愛のわざは、いわば彼女の魂の絶えざる呼吸、彼女の心の鼓動でした。彼女の著作全体の中心にあるのは、「イエスよ、わたしはあなたを愛します」という単純なことばです。イエスへの愛は、彼女を至聖なる三位一体の神の中に浸しました。テレーズは述べます。

「ああ！ あなたはご存じです 神なるイエス
わたしがあなたを愛していることを
愛の霊は その火でわたしを燃やします
あなたを愛することによって
わたしは御父を引き寄せます」（『詩』：P 17/2〔前掲伊庭昭子訳、116頁〕）。

親愛なる友人の皆様。わたしたちも幼きイエスの聖テレーズとともに、日々、主に向かって繰り返しいえなければなりません。わたしたちはあなたのため、人々のために愛を生きたいと思います。聖人の学びやで、真に完全な意味で愛することを学びたいと思います。テレーズは福音の「小さな者」の一人です。この「小さな者」は、神によって、神の神秘の深みにまで導かれます。テレーズはすべての人の、とりわけ、神の民の中で神学の奉仕職を果たす人々の導き手です。テレーズは、へりくだりと愛、信仰と希望をもって、絶えず聖書の中心に分け入りました。聖書の中にはキリストの神秘が収められているからです。「愛の知識」によって養われた、このような聖書の読み方は、学問的な知識と対立するものではありません。実際、テレーズが『ある靈魂の物語』の最後のところで語るとおり、「聖人の知識」は最高の知識です。「聖人がたは、皆このことを悟られましたが、たぶん全教会を福音の教えの輝きで照らした聖人がたは、特別によく悟られたことでしょう。聖パウロ、聖アウグスティヌス、十字架の聖ヨハネ、聖トマス・アキナス、聖フランチェスコ、聖ドミニクス、そのほか神さまの有名な友である多くの人々が、もっと偉大な天才をも驚嘆させるような神的な知識をくみ取ったのは、念祷の中からではなかったのでしょうか？」（『自叙伝』：Ms C, 36r〔前掲邦訳、382頁〕）。

（次号 9月号 に続きます）

心の泉



DE IMITATIONE CHRISTI
キリストにならう バルバロ訳



第一卷

第二十三章 死を黙想する

7 人生は消え去る

ああ、おろかな者よ、なぜ長命を保てると思っているのか、一日さえも確実なものではないのに。どれほど多くの人がこの錯覚に迷わされ、思いがけない時に、この世を去っていったことであろう？ある人は刀で刺され、ある人は溺死し、ある人は高いところから落ちて頭を割り、ある人は食事の間に息絶え、またある人は、遊んでいる時に急死した。しばしばあなたはこのようなことを聞いたであろう。ある人は火で、ある人は剣で、ある人は疫病^{えびょう}で、ある人は強盗の手にかかって死んだ。こうして、どんな人も最後は死である。人の命は影のようにすぐ消えてしまうものである。

8 天のために富を集めなさい

あなたの死後、誰があなたを思い出し、あなたのために祈ってくれるであろうか？愛する兄弟よ、今のうちに善をおこないなさい。あなたは自分がいつ死ぬかを知らず、また、死後どうなるかも知らないからである。時のある間に、不朽の富を集めよ。あなたの救い以外のことは何も考えず、神についてだけ心を配りなさい。神の聖人たちを尊敬し、彼らの模範にならって、天の友人をつくりなさい。そうすれば、あなたがこの世を去る時には、彼らがあなたを永遠の幕屋に迎え入れるであろう（ルカ 16・9 参照）。

子供が成長して 親の手を離れたとき 母は姿を消します。
それは当たり前です。

母が 再び姿を現すのは 成人した子供が
自分の過失からか あるいは思いがけない出来事から
自分のもろさに直面したときです。

そのとき 母は苦しみの中にいるこの子に
母としての心を取り戻します。

聖母は霊的な母です。

しかし 聖母の特権 強さ 優しさ 思いやりは
地上の母となんら変わることはありません。 *

～ 尊者マリー・エウジェヌヌ神父 ocd ～



尊者ヨハネ・パウロ2世前教皇
ファチマの聖母のご像の前で

7月16日はカルメル山の聖母の祝日、
20日は預言者エリヤの祝日、26日はマ
リアさまの母聖アンナの祝日を祝います。

かつてバールの神により頼むようになった
イスラエルの民への罰として、真の神は
生命の源ともいえる雨を絶たれました。
エリヤのとりなしで人々が真の神に立ち返
ったとき、エリヤはカルメル山の山頂で「人
の手ほどの小さな雲」が海から立ち上がる
のを見届けました。この雨雲にエリヤは子
をはらんだ処女を眺めたと初代修道者に関
する資料にあります。エリヤの信仰のまな
ざしはそこに命そのものであるキリスト、
恵みの雨の前兆を読み取ったのです。

後日「人々に命を与える」賤い主は「命
の水」に渴いている人々の心を潤すこと
になります。

混迷の21世紀に生きるわたしたちも、心も体も真の命の水に飢え渴き日々の
生活の中で常に真の命キリストを求め続けますように・・・・・・

伊徒 信子
ノートルダム・ド・ヴィ

* 『聖霊を友に』より

エデンの園(16)

くのり 彰

エデンの園で、人(アダム)は、女と共に、神が食べるなど命じられた「善悪の知識の木」の実を食べ、楽園から追放される。

その時の神の言葉は、次のようなものである。

主なる神は言われた。「人は我々の一人のように、善悪を知る者となった。今は、手を伸ばして命の木からも取って食べ、永遠に生きる者となるおそれがある」(創3・22)。

要するに、神は、人間が「永遠に生きる者」となることを恐れて、人をエデンの園から追放したということである。これによって、人は「死ぬ者」となる。死は、原罪の結果として、一種の罰としてこの世に入って来たと、使徒パウロは説明する。

このようなわけで、一人の人によって罪が世に入り、罪によって死が入り込んだように、死はすべての人に及んだのです。すべての人が罪を犯したからです。(ロマ5・12)

だが、素朴な質問として、原罪を犯さなかったならば、つまり、「善悪を知る者」とならなかったならば、エデンの園から追放されなかったわけであり、そこで、人は永遠に生きることができたのであろうか。言い換えれば、楽園にいれば、「命の木」の実を食べなくても、いるというそのこと自体で、人は「永遠に生きる者」として留まったのであろうか。

しかし、このような設問自体が、原罪物語を歴史上の出来事と取る解釈から派生するように思われる。人(アダム)の創造、女の創造は、象徴的なものである。すでに指摘したと思うが、創造物語は、二種類ある。第一の創造物語は、1章1節から2章4節までの「祭司伝承」と言われているものであり、第二の創造物語は、2章5節から24節までの「ヤーウェ伝承」である。

第一の物語では、天地創造から始まり、最後に人の創造があるのに対し、第二の物語では、天地創造の後、すぐに「主なる神は、土(アダマ)の塵で人(アダム)を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられ」(2・7)。その後、「東の方のエデンに園を設け、自ら形づくった人をそこに置かれた」(2・8)のである。要するに、植物、動物、最後に女を創造するのであって、第二の物語では、人(アダム)との関わりで創造が語られているのである。

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（156）



自然の兄弟姉妹であること

私たちが、海や山、森や荒れ野、木々や植物や動物、太陽や月や星、またすべての銀河を、「神の子供たちの栄光に輝く自由にあずかれる」(ロマ8:21)のを切に待ち望んでいる神の被造物と考えるならば、神の権能と、すべてを包み込む神の救いの計画を、ただ畏れ敬うことしかできないでしょう。苦しみのただ中で救いを待ち望む私たち人類だけでなく、すべての被造物も、私たちと共に、完全な自由に達しようとうめき。もがいているのです。

こうして私たちは、この世界の他のすべての男性や女性ばかりでなく、私たちを取り囲むすべてのものの兄弟姉妹となっているのです。そうです。私たちは、一面小麦の畑や、雪をいただいた山々や、荒れ狂う海や、野生の、または飼いなされた動物や、巨大なセコイアの森や、小さなヒナギクを愛さなければなりません。造られたすべてのものは、皆、私たちと共に、神の大きな家族に属しているのです。(1209)

神が造られたものの神聖さ

私たちは、世界の中でどのように生きているのでしょうか。どんな必要にもどんな目的にも使用できるさまざまな「もの」で満ちている場として、世界に関わっているのでしょうか。あるいは私たちは、世界を、何よりも、神が神性の計り知れない美しさを私たちに開示する神聖な空間、すなわち、秘跡的な現実として見ているのでしょうか。

私たちが世界を使用しているかぎり、その神聖さに気づくことはできません。なぜなら、私たちは、世界に、その所有者であるかのように、近づいていくからです。しかし私たちが、私たちを取り巻くすべてのものに、それらは私たちを創造した同じ神によって創造されたものであり、神が私たちに立ち現れ、礼拝と賛美へと招く場として関わっていくならば、その時、私たちは、神が造られたすべてのものの神聖さに気づくことができるでしょう。

(0923)

(九里 彰訳)

「イエスは、言われた。『娘よ、あなたの信仰があなたを救った。』」(マルコ5, 34)。

今日の福音は、イエスと二人の女性との出会い、一人は、長患いで財産を使い果たした婦人で、その病気出血症からの癒し、他の人は、死んだばかりの少女、その蘇生、絶対的に不可逆と見られる死からの帰還、病気、死のさなかでのイエスとの出会いです。聖書の記述からは、イエスがこれらの女性たちに出会ったのは、偶然であるかのように見えます。確かに、病気で苦しんでいる人は無数にいますし、すべての人間は死でその生涯を終える宿命にあります。癒された婦人も、一生涯、病から解放されたのではなりません。死から蘇生させていただいた少女も、いつか必ず死ぬのです、死を免除されたのではありません。ある意味では、二度も、死に直面し、その中に飲み込まれる恐怖を身をもって体験しなければならぬ、そんな不幸の中にいると言えるのかもしれませんが。確かに、生理的な病、死からの解放だけであるならば、そのように言わなければなりません。出血症を癒された婦人も、二度と病気になることはない保証されているわけではありません。「もうその病気にかからず、元気に暮らさなさい」。癒された状態でつつがなく生活しようとする、しかし、病魔から、また、死から逃れることはできないでしょう。そのときには、もう一度、偶然、イエスが通りかかることも、多分ないでしょう。病気、死の餌食に、必然的になってゆくのでしょうか。ここに偶然が必然に変貌される出会い、信仰の神秘があります。

イエスは、病気や死を排除してではなく、ご自身が病気も死も身に引き受けることによって、そのただ中で弱い人間たちへの愛を生ききられた、そして病気や死の棘は、愛の激しさに変貌された。わたしたち信仰者には 信仰に開かれていない人たちには閉ざされていた、病気、死を生きる新しい可能性が開かれている。「娘よ、あなたの信仰があなたを救った」、その救いは、偶然の、一時的な病からの癒しではなく、イエスのこの愛に眼を閉ざし、病に囚われ、本能的に感じる嫌悪、恐怖に閉じ込められている、今日の命を喜びの内に生ききれない心の構えからの必然的な解放なのです。イエスと共に生きるなら、病の苦しみや死の不安の中にも、信仰のない人には見えない新しい光、味わえないまったくこの世のものではない世界、この世の判断、価値観では触ることのできない神秘が、わたしたちを包んでいることを発見するでしょう。この光の中に生きる、それが、救いです。

ルカ渡辺幹夫

年間14主日

みことばのひびき

預言者が敬われないのは、自分の故郷、親戚の間だけである。(マルコ 6:1 - 6)

マルコの福音は、イエスがご自分の使命をどれほど真剣に行い、御父である神にどれほど従順に、謙遜に仕えられているかを語っています。聖書は、イエスが全くの謙遜と無のうちにこの世に生まれ、人間の肉のうちに謙遜な召使としてご自分を示されたと語っています。ときにイエスのミッションは失敗だったように思えます。イエスは神からのメッセージを持って人々のところに来られるのですが、人々はイエスを締め出します。公生活の間、イエスは弟子たちに伴われて故郷のナザレに行き、シナゴグに出かけて行きます。イエスは、信心深いユダヤ教徒の権利として、シナゴグで安息日について説明をしました。故郷の人たちはびっくりしました。彼らはイエスが語る智恵や、イエスが行っていると聞いている奇跡の力に驚きました。イエスが誰であるかを知っていたので一層驚きました。彼らはイエスといっしょに育ったのです。お父さんだけがイエスを信じましたが、他の人たちはイエスのことをあまりによく知っていたために受け入れようとしませんでした。

私たちの社会で今日でも多くの人たちが、イエスについては何でも知っていると考えます。彼らが拒否するのはしばしば真のイエス、福音書のイエスではなく、自分の考えの中にある歪んだ姿です。ナザレの人たちを簡単に責めますが、私たちは彼らとそれほど違いはありません。同じことが起こり得ますし、いつも起こっているのです。私たちが知っている人たちを通して、私たちに起こる事柄を通して、私たちがおぼわっている状況を通して、神は絶えず私たちに語り続けています。神は、私たちがよく知っている人を通して、好きでない人を通して、全く知らない人を通して、絶えず語りかけておられるので、私たちはイエスの声やメッセージに気づかないのです。私たちは、人という道具を通して語っておられる神ではなく、人を見てしまうのです。イエスは「預言者は、自分の国で、親戚の間で、自分の家で、軽蔑されるだけです。」という悲しい言葉を故郷の人たちに残されます。全ての預言者が覚悟しなければならぬ体験です。他の場所の人たちはイエスを熱狂的に歓迎しイエスの言葉にすがりついたのに、イエスの故郷の人たちや家族はイエスを冷ややかに扱いました。

真理や、愛、正義、自由、平和を主張するメッセージがこのような反感、敵意、憎しみ、暴力を生み出すのは不思議なことです。しかしこれらは常に起こることです。世界の多くの場所で真理、正義、自由などの言葉は危険で脅威を与えるものと見られています。奇妙なことです。これらの言葉を開きたがらない人たちがいます。今日の朗読は、これらの言葉の人間的なうわべを超えて神の真理を見るように、私たちの心が自覚めるように呼びかけています。自分の救いに恩義がある主に従い、仕え、御父である神の恵みと、イエスの聖なるみ名において私たちの兄弟姉妹を通して現れる聖霊の力を信じるべきです。私たちは皆、洗礼によって預言者となるように呼ばれています。私たちは皆、私たちの家族、職場、友人、社会において福音のメッセージを広げるように召されています。パウロは言っています。「それゆえ、弱さ、侮辱、窮乏、迫害、そして行き詰まりの状態にあっても、キリストのために満足しています。なぜなら、私は強いときにこそ強いからです。」これは真の預言者の声です。

(Sr. Paulina)

「十二人を呼び寄せ、二人ずつ組にして遣わすことにされた」(マルコ 6, 7)。

なぜ、イエスは、二人ずつ組にして派遣されたのでしょうか。証言は、少なくとも二人によって証言されて始めて効力を持つ、との規定があった、これも理由の一つでしょう。しかし、決定的なものは、弟子たちの証言が、自分の発意によって始まるのではなく、イエスの発意、また、イエスとの出会いを体験した共同体の発意によって始動するからではないでしょうか。パウロも、エルサレム母教会から派遣されて宣教の旅に出ています。共同体が、「主を礼拝し、断食していると、聖霊が告げた。『さあ、バルナバとサウロをわたしのために選び出しなさい。わたしが前もって二人に決めておいた仕事にあたらせるために。』」そこで、彼らは断食して祈り、二人の上に手を置いて出発させた」(使徒言行録 13, 2-3)。宣教は、たとえ少数の選ばれた人によって実行されるとしても、共同体の出来事です。共同体の名で派遣され、その名で行動するのです。個人主義的な私有物視は、許されません。単独行動も想定外です。二人は、複数を、共同体的な「わたしたち」を想起さ、そして、宣教は、新しい構成員を共同体に招き、同化し、共同体を建設するものです。

イエスが派遣にあたって弟子たちに与える権能、これも共同体、新しい神の民の国を建設のためのものです。具体的には、協力し合ってゆくべき自分たちの間にも見えてくる見解の差、宣教のために選ぶ方法の相違、気持ちの分裂に噴出している人間の現実、分裂、分断に流される現実、これは、悪の勢力、汚れた霊、ディアボロス(分裂に促すもの)の影響が見える形を取ったものであるでしょうが、この傾向に打ち勝ってゆく能力です。パウロ自身がこの人間の弱さが造りだす現実を体験しています。バルナバとの間に、「意見が激しく衝突し、彼らはずいに別行動を取るようになって、・・・出発した」(参照使徒言行録 15, 36-40)。このような分裂は、あるときには避けられない、しかし、より宣教に効果的なものに変容される道を探し、高いところからの修復、和解を捜し求めてゆく知恵の眼と相互に受け入れ合う心、上から来るこの力をイエスは約束しています。弟子たちに与えられた権能は、根源的には、この分裂させる傾向に打ち勝つ力、つまり、愛の力である、と言えます。宣教する弟子たちは、自分たち自身の内・外で、共同体をますます真実なものとし、宣教を私物化するのではなく、主イエスの死と復活を宣言する共同体を建設するのです。

ルカ 渡辺幹夫

年 間 第 16 主 日 (B)

“さあ、あなたがただけで人里離れた所へ行って、しばらく休むがよい” (マルコ 6 : 30-34)

今日の福音の中で聖マルコは宣教から戻ってきた弟子たちの様子を知らせています。弟子たちはイエスを見習って一生懸命働いて帰ってきました。神の国を宣言し、これを宣教し、生活を改めて神の国に入る準備をするよう人々に呼びかけました。弟子たちの働きによって、人々は隷属させられていた悪の力から自由にされ、清められ、癒されて様々の病から解放されました。二年以上に亘って、弟子たちはイエスが行われたことをイエスの権威によって行ってきました。イエスのところに戻って来た弟子たちは、自分たちの働きを一部始終報告するのです。イエスは弟子たちの喜びに満ちた様子をご覧になり嬉しく思われると同時に彼らの心身の疲れを察せられ、彼らだけで人里離れた所で休むように勧められました。ゆっくりとした時間の中で休み、祈りのうちにそれまでの働きを顧みることも必要と思われました。(時折同様のことが私たちにも必要です) 多くの人たちに囲まれ、食事をとる暇もなかったのです。弟子たちは、実際に働いたことを反省し、その原動力となった“力”がどこからのものかをしっかり見極める必要がありました。しかし群衆はそれを許さず弟子たちの後に従ってついて来たのです。この様子をご覧になって、イエスは群衆を深く憐れに思われました。

福音書を開くと、度々群衆に囲まれておられるイエスに出会います。イエスが群衆を引き寄せる魅力のある方であることはよく知っています。イエスご自身ほど宣教活動を大切に感じておられる方はありません。このイエスが弟子たちに、静かな所に行って休むように勧められたことを考えてみましょう。それほど弟子たちのことを気遣い、心を注いでおられるのです。また宣教活動は心の平和が無いと成し遂げられないこともご存知でした。福音書は、朝早く独り祈っておられるイエス、ある時には一晩中祈りに没頭しておられるイエスの姿を描いています。イエスは私たちにも同様に全身全霊をもって天の御父に向かうよう望んでいらっしゃるようです。羊飼いのいない羊のように導き手を持たない群衆、いのちと光の言葉に飢え渇き、日常生活の意味もわからず右往左往する群衆をご覧になって、イエスは、ご自分の疲れも顧みずすぐに座って教え始められるのでした。群衆は熱心にイエスの語られるみことばに聴き入りました。情熱をこめて力強く語られるそのみことばは、それまでに聞いたことのない心に響くものでした。

今日、私たちは、私たちの教会に真の善き牧者を与えて下さるよう祈らねばなりません。責任をもって温かな心で、人々の心の叫びや訴えに耳を傾け応えていく善き牧者です。同時にまた他の善きリーダーたち(家庭の両親や全ての教師たち)も与えられますように! 主イエスは私たちを正しい道に導いて下さる最高の善き牧者です。主に従って行くために私たちは主のみことばを聴き、理解し、実行しようとしています。そのためには時々生活の中の騒音や妨げになるものを慎重に排除し、主のみ声を聴くのです。こうすると日常生活において、どんな危険に直面しても恐れることはありません。善き牧者である主に願い祈りましょう。主に従う牧者としての私たちをいつも見守り、神の国の宣教を遂行していく恵みを豊かにお与えくださいますように!

(Sr. Paulina)

「イエスは目を上げ、大勢の群衆がご自分の方へ来るのを見て・・・」(ヨハネ 6, 5)。

この指摘の直前には、「イエスは山に登り、弟子たちと一緒にそこにお座りになった。ユダヤ人の祭りである過ぎ越し祭が近づいていた」と、荘重な書き出しがあり、これは、ヨハネによる最後の晩餐の書き出し、「さて、過ぎ越し祭の前のことである。イエスは、この世から父のもとへ移るご自分のときが来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた」(ヨハネ 13, 1) に、呼応しています。また、今日の福音の朗読箇所は、直前の年間第十六主日の福音の「マルコによる福音」の朗読箇所、「イエスは船から上がり、大勢の群衆を見て、飼い主のいない羊のような有様を深く憐れみ、色々教え始められた」(マルコ 6, 30-34)、に無理なく連結しています。マルコは、これに続けて人里離れたところでのパンの増加、五千人の人たちに食事を供した奇跡を書いています。この時点で、典礼での福音朗読の「マルコ」から「ヨハネ」への乗り換えが起こっているのです。いずれにせよ、パンの増加の奇跡は、最後の晩餐での聖体の制定につながり、ヨハネが最後の晩餐ではそれに触れてはいない穴を埋めているかのようです。主役は、イエスその方であり、また、この世にいる弟子たちを「この上なく愛し抜かれた」愛、「飼い主のいない羊のような有様を深く憐れみ」色々教える愛、心遣いが、すべてを導いています。

ヨハネでは、イエスの愛は名詞、アガペーで現されていますが、マルコをはじめ共観福音記者たちは、特殊な単語を使用します。スプラギッゾマイと名詞で、これは、イエス、あるいは神を表象する人が主語となる場合にのみ使用されています。「深く憐れむ」と翻訳されていますが、実は、「傷む愛」、自分を犠牲にして他者を包む愛、自己犠牲を含む愛を意味し、「苦しみ、痛み」を伴うことに強調点が置かれています。それは、「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された」(ヨハネ 3, 14)。「わたしたちすべてのために、その御子をさえ惜しまず死に渡された方は、御子と一緒にすべてのものをわたしたちに賜らないはずがありませんか」(ローマ 8, 32)「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります」(1ヨハネ 4, 10) と、福音のメッセージの中核に触れる単語です。ルカ 渡辺幹夫

火夫のカレンダー

丸山知佳子

皆さんのカレンダーには、どのようなことが書き込まれていますか？

私のカレンダーと言えば、ほとんど何も書き込まれないまま、まるで、まっさらのような感じで一年を終えることが多くなりました。病気の生活をしている期間が長いもので、外出も、活動も、ままならず、書く事と言えば病院の診察日の予約ぐらいいたりします。

最近、このような白紙のカレンダーって、ちょっぴり寂しいなあと思っていたところ、ふとしたひらめきを感じました。

それは、私以外の人達の予定を、カレンダーに書き込むということです。例えば、「Aさんは、毎週水曜日の朝の10時半から、どこどこで、こういうお仕事をやる」とか、「Bさんは、毎週土曜日の朝、リハビリのために病院に行く」とか、「Cさんは、今月の某月某日に合唱コンクールに出場する」とか、私の知っている色々な人達の予定を次々と、カレンダーに書き込んでみました。カレンダーが、色々な人達の予定で埋まって行きました。豊かな感じがしますね！

さて、一番楽しいのは、ここからです。毎朝、カレンダーを見て、そこに書いてある予定に合わせてお祈りするのです。たとえば、Aさんのために10時半から。Bさんのために土曜日の朝。Cさんの合唱コンクールの当日・・・などなど。

こうしていると、自分が火夫になったような気分になります。つまり、直接的に、動き回って、「教会という機関車」を運転してくれている人達のために、動きまわれない私は火夫となり、機関車の燃料室にいて、スコップで、「お祈りという石炭」をすくっては、えっほい、えっほいと、かまに入れるのです。

ご活躍なさっている皆様、いつもお疲れ様です。私も、えっほい、えっほい、と、祈りの石炭を入れて燃料を燃やし続けていますね。

2012年5月21日午前7時35分、太陽は私の目の前で指輪のような丸い輪となりました。金環日食です。

首都圏では173年ぶりのこと、今回は300年後ということで、正に我が身を絶する稀有な出来事に立ち会ったことになりました。

その上、鹿児島から福島までの広範囲で日食が見られるのは、何と932年ぶりという気の遠くなるような話で、加えては、8千万人の人口の上に金環食帯が広がったのは、人類史上初めてだとききました。

この時、宇宙から撮影された地球の映像は、日本列島の上に月の影が落ちていて、夢のような悠久のロマンを抱かせ、そのただ中に存在する自分自身を意識させられ、思わず瞑目して深々と吐息をついたことでした。

ずいぶん前から話題はもちきりで、私も人並みに日食用のめがねを用意して心待ちにしていました。当日は天候がすっきりせず太陽の出現を危ぶまれていましたが、朝早く家を出て見晴らしの良い所へと出向きました。そこはすでに三々五々の人の集いです。皆が同じさまで黒いめがねを持って空を見上げる姿は、何ともいえずほのぼのとしていて、私は満ち足りた楽しい心持ちでした。あいにく空はうす暗く、幾重にも雲の流れがありましたが、それでも時折すき間から光が差し、まだ輪とはなりきれない細い鎌のような三日月形の太陽が、見えたり隠れたりして、地上の人間たちをやきもきさせていました。

私は宇宙について科学的な関心を向け得たことはありません。

今回プロミネンスとかベリービーズといった名称を美しい映像とともに知りましたが、そもそも天体の仕組み、運動、数字の類は、頭に入れることができません。

月は毎年少しずつ地球から遠ざかっていて、そのために今後は金環日食が多く起こることとなり、そのかわり皆既日食はなくなっていくのだときかされても、解らないままにあやふやな顔つきでうなづくしかありません。そしてこれも聞いた話ですが、キリストの十字架の日「太陽が光を失い、全地が暗くなった」のは、皆既日食ではなかったかとの説もあるとか・・・？

ともかく私の頭脳は決して宇宙に近寄ることはできないのですが、幻想的なお話を聴く子どものような気持ちで、空を見上げることはします。

昼と夜、光と闇、そのグラデーションを享受し、幽玄な神秘として身勝手に

心を満たします。

しかし、もしこんなふうに思うことがゆるされるなら、無限とも思える宇宙体系は、「私」という極小の内的世界を想起させ、呼応するかの感があります。

言葉ではどうも表わしきれないものを、あえて表わそうとすることは、悲しいようなもったいないような気がするのですが、この漠漠としたものを手探りしてひと言にしようとするれば、やはり、創造の神秘というのでしょうか。

父である神さまの働きというのでしょうか。

更に想いを募らせると、「私」という世界には「上野毛教会」という世界があり、そして「カトリック教会」という世界があり、これ等は共鳴共振して重なり合い宇宙と響き合っていると感じるのです。

私を包み覆っているもの、私の魂に刻まれるもの、感知するもの、すべてを静かに静かに凝らしてひざまずく時、宇宙天体もカトリック教会も上野毛教会も私も、どれもみな神さまのものなのだと深く深く知っていくのです。

地上に在るひとつひとつの世界、ひとりひとりの心の世界は、神さまの働きの内において、未完のままに光と闇を抱えて天の宇宙と響き合うのだと思っています。

今、込み上げる天と地へ尽きせぬ想いはひとすじに遙かさへと立ち昇り溶け入ります。

太陽は金環となるその時刻に、幸運にも雲の切れ間から姿を現しました。

息をつめて見守る人びとの目の前でカチッと音がしたかと思えるほどに途切れは正確に繋がって丸い金の輪になりました。一斉に歓声です。「やったー」「わあー」「すごーい」天から降ってきた達成感いっぱいには私たちは互いに顔を合わせ笑い合いました。

偉偉のこの瞬間、各所ではプロポーズ、結婚式、金婚式など一世一代のイベントもおこなわれたようでした。

世紀の金環日食、天におられるわたしたちの父を深く想うはなはだ良い日でした。何といても宇宙天体こそは、主イエズスと私が実際にこの世で共にしたもののなのですから。

…ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

25. ロス・アンデスの聖テレサ (1900-1920) — その7

ロス・アンデスのテレサは、1900年7月13日にチリのサンティアゴに生まれ、イエス・マリアのみ心のホアナ・エンリケッタ・ヨゼフィナと名付けられた。両親は裕福な貴族階級に属し、6人の子に恵まれた。ホアナはその4番目の子供であり、家族からホアニタという愛称で呼ばれた。5歳の頃から、ホアナは、人々が神のことや宗教的な事柄について話をしているのを好んで聴き、決して飽きることがなかった。乗馬を愛した彼女は容貌にも恵まれていたが、それは虚栄心のもとともなり、他の欠点とともに、大変な努力を払って克服しなければならなかった。6歳の時から、毎日ミサに与かるようになり、「イエス様は、私の心を、ご自分のものとなさるために、お取りになりました」と言っていた。聖体拝領を熱く望んでいたが、10歳になるまで待たなければならず、これは彼女にとって浄化のときとなった。初聖体の前夜、家族のもとに行き、家族の心を傷つけたかもしれないすべてのことについて許しを願った。初聖体を受けた時、「イエスと私の靈魂は、本当に一つに溶け合いました」と語っている。その後も、ご聖体を拝領するたびに、「イエス様は私に長時間お話になりました」と記録している。聖母マリアに対する深い信心を持ち、ロザリオを毎日唱えていた。15歳の時から、死に至るまで、詳細な日記を書き残している。度々、重病を患ったが、喜びを失うことなく、いっそう真剣に信仰を生きた。日記からは、彼女が、自分の人生を苦しみと愛からなるものであると考えていたことが読み取れる。学業成績も秀でていたが、彼女が最も誇りにしていたのは「マリアの子ども」であることだった。音楽の才能にも恵まれ、ピアノやオルガンを弾き、美しい歌声の持ち主でもあった。15歳の時、貞潔の誓いを立て、カルメル会に入る決心をした。パーティーやダンスを好む一方で、貧しい人々に対しても、心遣いを忘れなかった。カルメル会の院長との文通によって霊的指導を受けながら入会の準備をし、1919年5月7日にロス・アンデスの修道院に入会、イエスのテレサという修道名で呼ばれるようになった。8日後、彼女は家族に「カルメルに来てから8日経ちました。天国のような8日間でした」と書き送っている。しかし、この天国は重病のしるしを帯びたものとなり、1920年の聖週間の中に、チフスを発症、その苦しみは最高潮に達した。病者の塗油の秘跡を受けた後、カルメル会の誓願を立てることを許され、1920年4月12日、主の御腕の中で、眠りについた。生前、彼女は書き残している。「死ぬということは、愛のうちに永遠に浸されることです。」



ロス・アンデスの聖テレサ

— 祈り —

今日、私は、自分がすっかりだめになってしまったように感じました。でも、十字架をしっかりと握りしめ、主に、「お愛しています」とだけ申し上げました。

主が、その無限の愛を靈魂たちに表すことがおできになるように、私はいけにえとして自分をお捧げいたしました。

私をお造りになられた主よ、私をお救いください。私は、あなたの甘美な御名を口にする資格のない者ですが、それは私に慰めをもたらします。自分がすっかりだめになってしまったように感じていますので、私はあえてあなたの無限のいつくしみを懇願いたします。そうです、私は恩知らずです。私は、このことを自覚しています。私は、反抗的な塵に過ぎない者です。罪深い無に過ぎない者です。でも、あなたは、良き羊飼いでいらっしゃるではありませんか。永遠の命を与えるために、サマリアの婦人を探しに来られたお方ではありませんか。姦通の女をかばい、罪人であったマリアの涙をぬぐわれたお方ではありませんか。確かに、彼らは、あなたのやさしい御まなざしにどのようにお答えするべきかを知っていました。彼らは、あなたが語られる命のことばを受け入れました。そして、私はたとえば——あなたのみ心が、私の心の中で鼓動しているのを感じなかったことが、幾たびあったことでしょう、あなたの美しいアクセントに耳を傾けることをしないで！——まだ、私はあなたをお愛してはいないのです。私をお許してください。私が、まだ、罪深い無に過ぎない者であり、罪を犯すことしかできないことを、思い出してください。おお、拝すべき私のイエス、あなたの神的なみ心によって、私の忘恩をゆるし、私の全てをあなたに引き寄せてください。私の周りで起こるすべてのことから、私を解放して下さい。いつもあなたを観想しながら生きることができるよう。あなたの愛のうちに沈んで生きることができるよう。それによって、みじめな存在である私を生かし、あなたの似姿へと変容していただきますように。

* * * * *

この記事は、跣足カルメル在世会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注) タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(1列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(寮原カルメル会派・編)

いのちの言葉 6月

朽ちる食べ物のためではなく、いつまでもなくならないで、
永遠の命に至る食べ物のために働きなさい。
これこそ、人の子があなたがたに与える食べ物である。

(ヨハネ 6・27)

イエスはティベリアス湖畔でパンを増やして、群衆の飢えを満たした後、彼を王にしようとする群衆から離れて、ひそかにカファルナウム地方の、湖の向こう岸へ退かれました。大勢の人々がイエスを捜して、みもとにやって来ましたが、イエスは、あまりに打算的な、人々の熱意を受け入れません。彼らは奇跡によるパンを食べましたが、このパンの深い意味をとらえることができず、単に物質的な利益を追うにとどまりました。このパンは、イエスが世に与える命を贈るため、御父から運ばれた方であることを示していましたが、人々はイエスのことを、単に奇跡を行う人、彼らに豊富に、だやすく食物を与えてくれる地上のメシアとしか、見ることができませんでした。

朽ちる食べ物のためではなく、いつまでもなくならないで、永遠の命に至る食べ物のために働きなさい。これこそ、人の子があなたがたに与える食べ物である。

「朽ちることのない食べ物」とは、イエスご自身であり、またイエスの教えでもあります。その教えは、イエスご自身と全く一つだからです。さらにイエスの他の言葉も読みあわせると、この「なくならない食べ物」とは、ご聖体というイエスのおん体を指すことがわかります。ですから、「朽ちることのない食べ物」とは、み言葉とご聖体を通して私たちに与えられる、イエスご自身であると言えるでしょう。

朽ちる食べ物のためではなく、いつまでもなくならないで、永遠の命に至る食べ物のために働きなさい。これこそ、人の子があなたがたに与える食べ物である。

聖書の中で、パンという^{比喩}は、水と同様よく用いられています。パンと水は、人が生きるためになくしてはならない主要な食べ物です。イエスはパンをご自身に当てはめ、ちょうどパンが肉体的な命に欠くことができないように、イエスご自身とその教えは、人間の霊的生活にとって必要不可欠であることを語っておられます。

確かに物質的なパンも必要で、イエスご自身も、奇跡によってパンを群衆にお与えになりましたが、それだけでは十分ではありません。人間は、たとえあまり意識していないとしても、真理、正義、善、愛、清さと光、平和と喜び、無限と永遠に対する渇きを抱いており、世はそれを満たすことはできません。人間のこの肉面的な飢えを満たすことができる唯一のお方として、イエスはご自分を示しておられます。

朽ちる食べ物のためではなく、いつまでもなくならないで、永遠の命に至る食べ物のために働きなさい。これこそ、人の子があなたがたに与える食べ物である。

イエスは「いのちのパン」としてご自分を示され、永遠の命を得るには、彼によって養われること、つまりそのみ言葉を信じる必要だと言われます。しかし、そ

れだけでなく、イエスは私たちがご自身と出会うよう望んでおられます。実際イエスは、「朽ちることのない食べ物」という言葉で私たちが力強く招かれ、この食べ物を得るため、あらゆる手段を尽くして働きかける必要があると言われます。強要はされませんが、イエスは、私たちが彼と出会い、彼の存在を味わうことを望んでおられるのです。

確かに人は、自分の力だけでイエスのもとに達することはできません。それは神の賜物によってのみ可能です。イエスは、ご自身を賜物として与えることを望まれ、人がこの賜物を受け入れるため心を準備するよう、絶えず招いておられます。人は、み言葉を実践する努力をしてはじめて、イエスに対する満ち溢れた信仰に達し、彼の言葉を、香りが高く味わい深いパンのように味わうことができるのです。

朽ちる食べ物のためではなく、いつまでもなくならないで、永遠の命に至る食べ物のために働きなさい。これこそ、人の子があなたがたに与える食べ物である。

今月のみ言葉は、イエスの教えの特定の点（侮辱されても相手をゆるす、常に執着しないなど）について語るものではなく、むしろ、キリスト教的生活の根本である、イエスとの個人的な関係に向けて、私たちが働くものです。

イエスのみ言葉、特に、あらゆる定と神のみ言葉を要約する「隣人への愛の錠」を、熱心に生き始めた人は、イエスこそ心の望みを満たす命の「パン」であり、喜びと光の源であることを、多少なりとも感じることでしょう。その人は、み言葉を実践しながら、み言葉が人類と世界の諸問題に対する真の答えであることを、味わうようになります。「いのちの糧」であるイエスは、ご聖体の内に、ご自身を最高の賜物としてお与えになるので、み言葉を生きる人は自然と、愛をもってご聖体を受けるようになります。ご聖体はその人の生活の中で、最も大切な位置を占めるようになるでしょう。

このすばらしい経験をした人は、その発見を自分の内にしまっておかないようにしましょう。イエスが「いのちのパン」を得るようと、熱心に私たちが促されるように、人々にも伝えましょう。それは、多くの人がいつも探し求めてきたものを、イエスの内に見いだすためです。これは隣人への大きな愛の行いとなります。彼らも、この世の中にあってすでに、真の命とは何かを知り、死ぬことのない命を得られるからです。人はこれ以上の何を望むことができますでしょうか。

キアラ・ルービック

★ フォコラーレの創立者キアラ・ルービックが、2008年3月14日に帰天した後、彼女が遺言に残した解説を「いのちの言葉」として取り上げています。今月の言葉は、1985年8月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

関東： マリアポリ

とき：7月14日（土）

12：30 受付 13：30 開始

7月16日（月・祝） 昼食後 解散

ところ： 巣鴨館

〒401-0502 山梨県南都留郡山中湖村平野210

いのちの言葉の集い

とき：6月10日（日）14：00から

ところ： 藤沢市労働会館にて

連絡先

フォコラーレ：03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：フォコラーレで検索

<http://focolare.world.cocan.jp/>

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (60)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

天上でもっとも偉大な聖人

三位一体についてのこぼれ話があります。

それは次のようなものです。十字架のヨハネ修士は、至聖なる三位一体に対すとも深い信心を持っていました。そこで、典礼規則が許す場合には、至聖なる三位一体の任意ミサを行なうのを好みました。グラナダのカルメル会修道女の香部屋係は、十字架のマリア（マチュカ）で、後にウベダの創立者となった人物です。彼女は、ある日、全く無邪気に聖人にたずねました。

「神父様、どうしてこんなに何度も三位一体のミサをたてるのですか」。

「恵みによって」と、聖人は答えました。この答えから、聞きたがり屋のこの修道女は、次のように彼を評価しました。

「私は、彼が天上においてもっとも偉大な聖人であると思います」。面白いだけでなく、真実であり、大切な点です。

祈りは何をもたらすのですか？

十字架の聖ヨハネが、コミュニケーションの手段として、また教育方法として、対話を大変好んだことは、私たちがすでに知っているところです。以前の逸話においては、人々が彼に質問しました。この逸話では、彼が質問する者です。

彼の身に起こったことを、ベアスの跣足カルメル会修道女である神の母のフランシスカが、物語っています。

「ある日、祈りは何をもたらすのかと聖人が彼女に質問した時、彼女は“神の美しさを眺め、それがあることを喜ぶことです”と答えました」。

修道女の答えは、二つの側面を含んでいます。神の美しさを眺め、考え、観想することと、それがあることを喜び、楽しみ、歎喜することです。

私たちは、神を善い者、美しい者、憐れみ深い者とすることはできませんでした。けれども、神の善さ、美しさ、憐れみを考察すること、それによって喜びで満たされることは、できますし、またそうしなければならないでしょう。

(続く)

跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。



<< Communications (時事通信) >>

聖テレーズとロスアンデスの聖テレサ

2013年ワールド ユースデイ (世界青年の日) 保護聖人の中のカルメル会

リオ・デ・ジャネイロ発—ブラジル (2012年6月1日)

オラニ・ジョアウン・ティンペスタ司教は市内の“巖の聖母”教会で、来年ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催される、ワールドユースデイの保護聖人及び取り成しの聖人たちを公表しましたが、その中の2人はカルメル会の聖人でした。

フランスの跣足カルメル会修道女で宣教の保護聖人である、幼いイエスの聖テレジアが、他の四人の聖人——その一人は、この行事を始めた福者ヨハネ・パウロ二世前教皇です——と共に、2013年リオ・デ・ジャネイロでのワールドユースデイの保護聖人に決まりました。

また保護の聖人のほかに、13人のとりなしの聖人あるいはこの行事のモデルとなる聖人が発表されました。その中に、チリの跣足カルメル会修道女、ロス・アンデスのイエスの聖テレジアが選ばれています。

ワールド ユースデイで、はじめて保護の聖人が決められたのは、2002年のカナダのトロントで開催の時です。それ以来毎回カルメル会の聖人がこの行事の保護の聖人に選ばれています。幼いイエスの聖テレジアは、トロント、シドニー、そして来年のリオ・デ・ジャネイロにも選ばれています。2005年のケルンで開催の時には、教皇ベネディクト16世はイエスの聖テレジアとエディット・シュタインをキリスト者の道のモデルとして選ばれました。昨年2012年のマドリドのワールドユースデイには、十字架の聖ヨハネとイエスの聖テレジアが保護の聖人に選ばれています。



『わがテレーズ 愛の成長』 重版のお知らせ

マリー・エウジェンヌ師が尊者に挙げられたのを機に

絶版となっていました『わがテレーズ』が重版されました！



マリー・エウジェンヌ 著
伊從 信子 訳
サンパウロ 出版 173 ページ

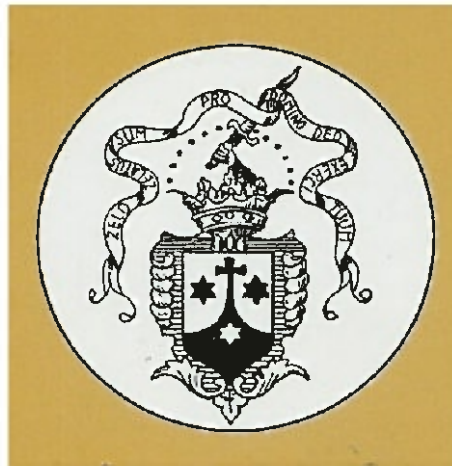
現代社会は 神に飢え渴くものにとってはまさに水も食べ物もない荒野である。
それでも 神に向かう旅路を歩み続けなければならないとするならば、
どうしたらよいのだろう。

本書は、この重要な問いに応えてくれる。

「自分が無に過ぎないことを認めて、幼子のように、神のみ腕に自分を委ねさえすれば足りる」神への単純なまなごしを生きる、これならば信徒にも可能なことである。

～森 一弘 司教～
表紙のとびらより

カルメル会の企画案内



「カルメル」
今日の霊性・夏号
特集号・四旬節講話



2012 夏 No.345

カルメル 2012 特集号

「テレジアは現代に何を語るか」

砂漠の修道院に入る

奥村一郎 50

真理は人を自由にする

—— 古澤義孝と真理

谷口正子 44

心の土壌を耕すために

(2)

中山眞実 38

エディット・シュタインとともに震災後を生きて

—— 死と再生の霊性 (2)

須沢かおり 31

アルジェリアの白い殉教者たち(前編)

高橋重幸 24

カルメルの霊性の源流を探して

—— その「会則」に見る生活 (8)

中川博道 18

現代における「従順」の意味

—— 聖テレジアの「創立史」を中心にして

九里 彰 12

わたしは神を見たい

(2)

伊藤信子 3

● 目次 ●

● 目次 ●					
テレジアの涙					新井延和 2
『完徳の道』に見る「祈りと生活」					
アビラの聖テレジア(アヴィラの聖テレサ)の					
『創立史』にみる信仰の歩み					九里 彰 10
神の住いであるわたしたち					
—— 『靈魂の城』に聴きながら					中川博道 35
三位一体の神との交わりの崇高な神秘体験、					
地上に苦しむキリストの神秘体との連帯					渡辺幹夫 46

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円 (+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+ 送料【700円】計 3,000円)を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

カルメル山の聖母の祭日と祝会のお知らせ

東京 上野毛教会



7月15日（日）

10:30～ カルメル山の聖母を祝う合同ミサ
ベルナルド神父様叙階60周年記念を祝うミサ
その後 お祝いパーティー（信徒会館ホール）

12:45～ スカプラリオ授与式（聖堂）

7月16日（月）カルメル山の聖母の祭日ミサ

6時30分・10時 ミサ

19時30分 晩の祈り（歌）のあと ミサ

各ミサ後 聖堂でスカプラリオの授与式を行います

※スカプラリオをご希望の方は 当日 聖堂入り口の申し込み用紙に
お名前をご記入ください

カトリック上野毛教会・カルメル会修道会上野毛修道院

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

TEL 03-3704-2171

上野毛霊性センター ～ '13年3月

黙想企画 ** 聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 一泊聖書深読 指導：新井延和神父

(毎回金曜日夕食～土曜日16時)

2012年

9月 7日～ 9月 8日

11月30日～12月 1日

2013年

3月 1日～ 3月 2日

2. 奉献生活者の為の黙想会

7月26日(木) 18時～8月 4日(土)

福田正範神父

8月16日(木) 18時～8月25日(土)

福田正範神父

12月27日(木) 18時～2013年1月5日(土)

福田正範神父

3. 木曜黙想会(毎回木曜日10時～16時)

年間テーマ 「信仰」

9月 6日 「信仰の成熟」

渡辺幹夫神父

11月29日 「信仰とは？」

中川博道神父

4. 金曜黙想会 カルメルの聖人(毎回金曜日10時～16時)

~~7月13日 「ロス・アンデスの聖テレサ」~~ ※都合により中止となりました。

12月14日 「十字架の聖ヨハネ」

中川博道神父

2013年

2月22日 「カルメルの原始会則の霊性」

渡辺幹夫神父

5. 青年黙想会(男女)

福田正範神父、古川利雅神父、神学生

11月23日(金)～11月25日(日) 「信仰に生きる」

6. 召命黙想会(男女)

福田正範神父、古川利雅神父、神学生

7月14日(土)14時～16日(月) 「愛に生きる」

7. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
2012年12月24日(月・振休)～25日(火)《講話なし、夕食なし》

8. 特別黙想会 伊従信子(ノートル・ド・ヴィ)

初日の夕食は済ませてご参加下さい。

10月19日(金)20時～21日(日)16時 信仰の年にあたって(II)

9. 聖週間前の黙想会(2013年) 福田正範神父

※注)2013年

3月17日(日)18時～3月19日(火)16時 過ぎ越しの子羊・キリスト



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。

またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません
のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp



一泊黙想会



みことばを生きる

* 2012年7月11日（水）18時夕食～12日（木）16時

指 導： 福田正範師（カルメル会司祭）

場 所： カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

会 費： 一泊参加・・・¥6000



◎日帰り参加ご希望の方は、翌日10時～16時・・・¥3500



お問合せ・お申込み： カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

TEL：03-5706-7355

FAX：03-3704-1764

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

カルメル召命黙想会

愛に生きる



- 日時 : 7月14日(土) 15時 ~ 16日(月) 16時
場所 : カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
対象 : 独身の青年男女(40歳まで)
定員 : 20名
費用 : 一般 10,000円 学生 7,000円
締切 : 7月7日(土) <必着>
指導 : 福田正範神父・カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
電話 : 03(5706)7355
FAX : 03(3704)1764
E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp



講座のご案内

■場所：カトリック上野毛教会（信徒会館ホール）

■担当：中川博道（カルメル修道会）

■どなたでもいつからでもご参加ください



カルメルの靈性に親しむ

朝のクラス・火曜日

《10:30~12:00》

夜のクラス・金曜日

《19:15~20:45》

7月10日	7月13日
10月16日	10月19日
11月20日	11月16日

キリストとの親しさ

朝のクラス・火曜日

《10:30~12:00》

夜のクラス・金曜日

《19:15~20:45》

9月25日	9月28日
10月30日	11月2日
12月4日	12月4日(火曜日)
2013年 2月12日	2013年 2月15日

キリスト教の基本を学ぶ

—洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に—

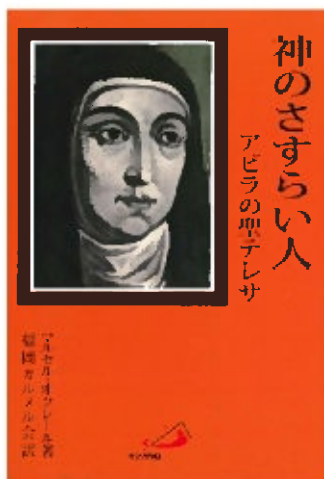
いずれも 金曜日

朝のクラス《10:30~12:00》 夜のクラス《19:30~21:00》

6	7月6日	「人間の問題性」(2)
7	7月20日	「信仰を生きるとは？」
8	9月7日	「人間の問題性に関わる神」
9	9月21日	「イエス・キリストに出会う」
10	10月12日	「福音が語るイエス・キリスト」
11	10月26日	「イエス・キリストの自己理解」
12	11月9日	「キリストに近づく」

お問合せ: carmel-reisei@hotmail.co.jp

カルメル会出版物のご案内



「神のさすらい人」
アビラの聖テレサ
マルセル・オクレール著
福岡カルメル会訳



「創立史」
イエズスの聖テレジア著



「靈魂の城」
イエズスの聖テレジア著



「カルメル山登攀」
十字架の聖ヨハネ著
奥村一郎 訳

●お問合せは下記まで

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1764

E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

2012年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【一般のための黙想】1泊2日(午後5時～午後4時)

- 7月 7日(土)～8日(日) 聖霊の体験 今泉健神父
9月 1日(土)～2日(日) 神の国の訪れ 松田浩一神父
11月24日(土)～25日(日) 黙示録 新井延和神父

【聖書深読黙想会】

・1日(午前10時～午後4時)

- 10月 6日(土) 新井延和神父
12月22日(土) 新井延和神父

・水曜の黙想(午前10時～午後4時)

- 7月25日(水) 真理 新井延和神父
9月 5日(水) テレーズと共に 今泉健神父
10月17日(水) 終生おとめ聖マリア 松田浩一神父
11月14日(水) キリストの第二の到来 今泉健神父
12月12日(水) 受肉 新井延和神父

・待降節の黙想(午後5時～午後4時)

- 12月1日(土)～12月2日(日) 今泉健神父 肉となったみことば

・聖テレーズの黙想(午後5時～午後4時)

- 9月30日(日)～10月1日(月) 伊従信子師

カルメル青年黙想会(午後5時～午後4時)

- 11月10日(土)～11月11日(日) カルメル会士 観想者聖マリアに従う

【一般のためのカルメルの霊性入門】(午後5時～午後4時)

- 10月14日(日)～10月15日(月) 松田浩一神父
イエスの聖テレサの靈魂の城の導入

奉献生活者の黙想（午後5時～午前9時）

8月 2日(木)～8月11日(土)松田浩一神父

8月16日(木)～8月25日(土)今泉健神父

12月27日(木)～1月 5日(土)新井延和神父

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時

12月24日(月)～12月25日(火) [講話なし、各食事つき]

講座 『テレジアは現代に何を語るか』

別紙参照して下さい。



—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 , Fax 0774-32-7457
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

講座：テレジアは現代に何を語るか

＜アビラの聖テレジアの生誕 500 年祭に向けて、彼女の著作を読む＞

場所：京都河原町カテドラル横の教区事務局 6F ホール

日時：下記の各月日の午後 2 時半より 4 時まで

入場無料

5 月 19 日（土） 新井延和 神父

『自叙伝』による「テレジアの涙」

6 月 16 日（土） 松田浩一 神父

『創立史』にみる信仰の歩み

9 月 22 日（土） 九里 彰 神父

『完徳の道』に見る「祈りと生活」



10 月 20 日（土） 中川博道 神父

「神の住まいであるわたしたち」

『靈魂の城』を聴きながら

11 月 17 日（土） 渡辺幹夫 神父

「三位一体の神との交わりの崇高な神秘体験、
地上に苦しむキリストの神秘体との連帯」

『小品集』による

男子跣足カルメル修道会 宇治修道院へのお問い合わせ

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

男子跣足カルメル修道会宇治修道院

TEL 0774-32-7456

FAX 0774-32-7457

 teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 一日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6人

【開催日】

- | | | |
|---|-------|------------------|
| ① | 2012年 | 1月13日(金)～14日(土) |
| ② | | 2月10日(金)～11日(土) |
| ③ | | 3月16日(金)～17日(土) |
| ④ | | 4月13日(金)～14日(土) |
| ⑤ | | 6月 8日(金)～ 9日(土) |
| ⑥ | | 7月13日(金)～14日(土) |
| ⑦ | | 9月 7日(金)～ 8日(土) |
| ⑧ | | 10月12日(金)～13日(土) |
| ⑨ | | 11月 9日(金)～10日(土) |
| ⑩ | 2013年 | 1月25日(金)～26日(土) |
| ⑪ | | 2月 8日(金)～ 9日(土) |
| ⑫ | | 3月 8日(金)～ 9日(土) |

(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 5,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
 カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
 Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457
 E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

聖テレーズの黙想会

2012年9月30日(日曜日)5時—10月1日(月曜日)4時

テレーズの命日、祝日に

テレーズといっしょに祈りのひと時をもちませんか



わたしは死ぬのではありません

命に入ります

わたしは地上で
善を行いながら
天国を過ごしましょう



指導：伊従 信子

場所：カルメル会 聖テレジア宇治修道院(黙想)

611-0022 宇治市木幡御蔵山39-1

持参するもの：

新約聖書、『弱さと神の慈しみ』(サン・パウロ社)

『テレーズの祈り』(聖母の騎士社)

筆記用具、パジャマ

申し込み先：ファクス 0774-32-7457

電話 0774-32-7016

e-mail teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

～都会の中の一泊静修～（2012）

「イエスにお目にかかりたいのです」

—今の時代から「イエスに会いたい」と問われているわたしたち—

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ 12・21)。この願いは、(中略)大聖年を過ごした私たちの耳にも霊的にこだましています。二千年前の巡礼者のように、今日の人々は今日の信仰者に、たとえ意識的になくとも、キリストについて「語ってほしい」だけでなく、ある意味でキリストに「会いたい」と願っています。教会の務めは、歴史のあらゆる時代にキリストの光を放つことであり、今日も、新しい千年期の人々の前に、キリストのみ顔の光の輝かせることではないでしょうか。

しかし、わたしたちがまずキリストのみ顔を親想しない限り、わたしたちのあかしは耐え難いほど貧弱なものであるに違いありません。
(教皇ヨハネパウロ二世使徒的書簡「新千年期の初めに」 p. 22)

第1回	1月9日(月・祝)	キリストの御尊の親想と宣教(全体の導入)	中川博道神父 (上野毛修道院)
第2回	2月 4日(土)	苦しみとイエスに出あうこと	福田正範神父 (上野毛修道院)
第3回	3月31日(土)	イエスの聖テレジアにおけるキリストの福音	松田浩一神父 (宇治修道院)
第4回	4月14日(土)	復活したキリスト：復活のラウレンシオ	今泉健神父 (宇治修道院)
第5回	5月26日(土)	聖霊が働く	新井延和神父 (宇治修道院)
第6回	6月16日(土)	三位一体のエリザベットと宣教	九里章神父 (本部修道院)
第7回	7月 7日(土)	聖体と宣教：ヘルマン・コーヘン	古川剛雅神父 (上野毛修道院)
第8回	9月22日(土・祝)	マリー・エフジェヌス 人々を神への親しさへと導く	Sr.伊従信子 (ノートルダム・ド・ヴィ)
第9回	10月20日(土)	布教の保護者、幼きイエスの聖テレジア	Sr.パブリナ (宣教カルメル修院)
第10回	11月23日(金・祝)	十字架の聖ヨハネと宣教	九里章神父 (本部修道院)

* 時間 AM10:00～PM4:00

* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接

* 参加費 1,000円

* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当

* 定員 約30名

* プログラム
 10:00～ 祈り・導入・黙想
 10:30～ 講話(1)
 黙想・救しの秘跡または面接
 11:50～ 昼の祈り・お告げの祈り
 12:15～ 昼食
 12:50～ 黙想・救しの秘跡または面接
 13:30～ 講話(2)
 14:45～ ミサ
 15:30～ 茶話会・分かち合い
 16:00～ 終了予定

☞ 申し込みは、下記の住所へハガキか FAX で、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市長久区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX052-671-1825

一日静修連絡係 〒465-0058 名古屋市長久区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL・FAX 052-701-3685

2012年度名古屋聖書深読会

第2回 10月27日(土)

新井延和神父(宇治修道院)

- 時間 午前10時～午後4時
- 場所 カトリック日比野教会
地下鉄名城線日比野下車、徒歩約5分 *聖テレジア幼稚園隣接
- 参加費 ￥1000
- 持ち物 聖書・筆記用具・ノート・昼食等

* 毎回、事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

* 申し込みは、開催日の3日前までにFaxまたはハガキで下記へお願いします。信徒の方は、所属教会名も記載下さい。

* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

☞ 申し込み先

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX052-671-1825

☆連絡係

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2-115

小林 厚・晃子

TEL/FAX052-701-3685

土曜フレックスタイム静修

毎月第3土曜日 13:30 ~ 16:00 の予定で行います。

御自分の都合に合わせて好きな時間に参加でき（来る時間も帰る時間も自由）、霊的にだけでなく、心身ともにリフレッシュできる時間として御利用下さい。

日時 毎月第3土曜日 13:00 ~ 16:00

場所 三馬教会（石川県金沢市）

プログラム

13:30 ~ 15min. 聖書朗読、短い講話

14:30 ~ 15min. ベネディクション、聖体顯示

15:30 ~ 15min. 聖体拝領

16:00 ~ サルヴェレジナ、終了

各合間の時間は、各自自由に黙想しながら祈る時間です。



霊性センター

毎月第2日曜日 14:00 ~ 15:00 カルメル霊性センターの講話があります。

日曜日、午後の一時、心の耳を澄ませてみましょう。

日時 毎月第2日曜日

場所 三馬教会（石川県金沢市）

プログラム

14:00 ~ 講話（講師：カルメル会士）

15:00 ~ ミサ

カルメル霊性センター

〒 921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父迄

Tel. 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーパー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
マリアの御心会
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
慈しみ深き会
CWC (キリスト者婦人の集い)
フォコラーレ

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観黙想センター」藤原神父
FAX 072-802-5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2012年予定

- P 2 07/20 (金) -7/26 (木) 西宮・女子トラピスチヌ
N 3 09/20 (金) -9/26 (木) 滋賀唐崎・ノートルダム
P 3 09/30 (日) -10/06 (土) 西宮・女子トラピスチヌ
K 4 10/12 (金) -10/18 (木) 東京・小金井・聖霊会
N 4 10/28 (日) -11/3 (土) 滋賀唐崎・ノートルダム
K 5 12/01 (土) -12/07 (金) 東京・小金井・聖霊会

2013年予定

- K 1 1/26 (土) -2/1 (金) 東京・小金井・聖霊会
M 1 2/24 (日) -3/2 (土) 宝塚売布・女子御受難会
K 2 4/6 (土) -4/12 (金) 東京・小金井・聖霊会
S 1 4/14 (日) -4/20 (土) 千葉白子・十字架 イエスベネディクト会
K 3 6/6 (木) -6/12 (水) 東京・小金井・聖霊会
M 2 6/23 (日) -6/29 (土) 宝塚売布・女子御受難会
K 4 8/24 (土) -8/30 (金) 東京・小金井・聖霊会

真命山の靈性



自然 神はすべてを造り人の
手にゆだねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで **祈り**



静けさ 沈黙の中に神の言葉
を聞こう

信仰体験を分かち **交わり**

御聖体、愛の秘跡



- | | |
|--------|-------------------------------|
| 1月12日 | 愛の秘跡である御聖体 |
| 2月 9日 | 信仰の神秘 |
| 3月 8日 | 「過越」の子羊 |
| 4月12日 | 教会を生み出す御聖体 |
| 5月10日 | 御聖体とおとめマリア |
| 6月14日 | キリストによって、キリスト
とともに、キリストの内に |
| 7月12日 | 御聖体に生かされて生きる |
| 8月 | 休み |
| 9月13日 | 御聖体の典礼と美 |
| 10月11日 | 御聖体と福音の宣教 |
| 11月 8日 | 御聖体礼拝 |
| 12月13日 | 終末の宴 |

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父

(真命山院長)

ダニエレ サルティ・サルトリ
神父

Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
(要予約)

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、
9時30分～12時15分、岐部ホール4階404、
19・20世紀近代・現代のキリスト教関係の
思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリスト
教の関係に関心を持っている方、プログラム等に関
してHP(文末)を見て下さい。
夏学期: 近代前半の霊性と思想(15世紀後半～17世紀) 07/07、07/14、07/28、09/01、
09/08

冬学期: 近代後半・現代の霊性と思想(18世紀～21世紀初頭)
10/06、10/13、10/20、11/10、11/17、12/01、
12/08

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥル
ハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全
体、10月31日、1月2日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45
分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日は休み。8月14日、28日はク
ルトウルハイム聖堂。
・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40
分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月7日は休み。
・水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトゥル
ハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全

体、10月31日、1月2日は休み。

・通う霊操 8月18日(土)～8月26日(日)18時～20時45分
上智大学内クルトゥルハイム聖堂

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内SJハウ
ス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。
7月7日、9月1日、10月6日、11月10日、12月1日、2013年1
月5日、2月2日、3月2日
・ロザリオの祈り(同日、ミサに続いて)16時10分～16時50
分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂

●黙想会

9月29日(土)10時～30日(日)14時(東村山)、
11月24日(土)10時～25日(日)14時(東村山)、
2013年2月16日(土)10時～17日(日)14時(東村山)。1泊
6600円程度。
[関西] 10月27日(土)13時30分～28日(日)15時(宝塚)

●坐禅会

・月曜日 17時20分～20時10分
・木曜日 18時～20時30分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。但し祝日、
4月5日は休み。3回坐り、間に講話。

●坐禅接心

秋川神冥窟。1泊2400円(+暖房費)程度。
8月6日(月)20時30分～12日(日)10時
9月14日(金)20時30分～17日(月)10時
10月31日(水)20時30分～11月4日(日)10時
宝塚市

7月30日(月)17時45分～8月5日(日)15時

●アガベ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18
時)。上智大学内SJハウス第5会議室
6月2日(土)、2013年1月26日(土)

2012年10月21日(日)の集いは13時から。岐部ホール4
階404(予定)

●クリスマス

クリスマス会:12月15日(土)16時～20時30分。岐部ホー
ル4階404(予定)。要申し込み。
クリスマスのミサ:12月23日(日)14時～上智大学内クル
トゥルハイム聖堂(80人限定)。

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

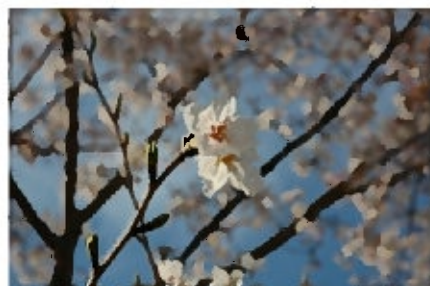
リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2012年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 07/06: イエスの人間関係— 罪人と弟子と共に
07/13: イエスは誰か— イエスの自己理解
07/20: 最後の晩餐— 自分を与えるイエス
07/27: イエスの受難— その史実と意図
07/28: ◆感謝のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階、80人限定)
08/03: ○休み
08/10: ○休み
08/17: イエスの死— その救済的意義/(上智大学内クルトゥルハイム2階)
08/18-26: ●通う霊操(18時-20時45分)/(上智大学内クルトゥルハイム2階)
08/24: 聖書のイエス像— ヨハネの見たイエス/(上智大学内クルトゥルハイム2階)
08/31: イエスの復活— 今に生きるイエス/(上智大学内クルトゥルハイム2階)
09/07: 聖霊— 神の愛に導かれる
09/14: 祈りの本質とさまざまな祈り方— 神と関わる
09/21: 洗礼と堅信— イエスに結ばれて生きる
09/28: 教会の成立と意味— イエスを中心に集う
09/29-30: ●黙想会(東村山)
10/05: 人間としてのイエス— 新しい人間像の基礎づけ
10/12: 御子としてのイエス— イエスの神との関係



※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2012年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

- 【神】
07/03: 「私は在る」—— 旧約における神の自己啓示と預言
【人間への神の関わり】
07/17: 神の語りかけ—— 「契約」と「救い主」の待望
07/28: ◆感謝のミサ(14時、クルトゥルハイム2階、80人限定)
08/07: ○休み
08/21: ○休み
08/18-26: ●通う霊操(18時-20時45分、クルトゥルハイム2階)
【イエス】
09/04: 史的イエス—— 活動と生き方の特徴
09/18: 神の国—— イエスの使信
09/29-30: ●黙想会(東村山)
10/02: 根本たる愛—— 律法の完成と克服
10/16: 受難による救い—— イエスの救済的役割
10/30: 死からの命—— 復活の認識・経験・理解
11/06: キリストはだれか—— キリスト理解の発展
11/20: 御子の受肉—— 神の子と人の子
11/24-25: ●黙想会(東村山)

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラス・リーゼンフーバー神父
〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1
上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通)
-5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」
すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。

2012年

9月 未定
10月27日

講話 伊従信子・片山はるひ

午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

参加をご希望の方は、当日の午前～2時迄にお電話かFAXでこちらまでご連絡頂けますと幸いです。

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ
〒177-0044
練馬区上石神井4-32-35
TEL(03)・3594・2247
Fax(03)・3594・2254
E-mail notredamedevie.japan@gmail.com
ホームページ
<http://www.ndv-jp.org/>

カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

マリアの御心会

主日の福音の
分かち合い

2012年 6月29日(金) 7月27日(金)

午前 10:30～12:00

福音を読んで、分かち合い、祈りましょう。

どなたでも、ご参加ください。



主催：マリアの御心会
JR「信濃町」下車徒歩3分
問い合わせと申し込み

Tel 03-3351-0297

働く人のための
祈りの集い
みことばの分ち合い

時間 19:00~20:30 (第2水曜日)

2012年 7月11日



主催：マリアの御心会
JR「信濃町」下車徒歩3分
お問い合わせ 申し込み

TEL 03-3351-0297

軽食あり、自由献金



「来て、見なさい」

「イエスとの関わり」

—主よ、私の道はどこに

—祈りと分かち合いを

通して探して行きましょう

テーマ：ガリラヤのイエスの呼びかけ

日時：7月29日(日) 14:00~16:30

対象：自分の道を探している

35歳までの独身女性

場所：マリアの御心会 (JR 信濃町下車3分)

会費：各回 500円

担当：マリアの御心会会員

お問い合わせ・申し込み TEL03-3351-0297

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel: 077-579-7580
Fax: 077-579-3804
E-メール: karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約13分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 11年12月27日(火)～12年1月4日(水)
- ② 12年3月14日(水)～3月22日(木)
- ③ 8月15日(水)～8月23日(木)
- ④ 10月27日(土)～11月4日(日)
- ⑤ 12月27日(木)～13年1月4日(金)

B. 祈りの体験：週末3日間(金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2月3日(金)～2月5日(日)
- ② 4月27日(金)～4月29日(日)
- ③ 5月18日(金)～5月20日(日)
- ④ 6月15日(金)～6月17日(日)
- ⑤ 7月13日(金)～7月15日(日)
- ⑥ 9月21日(金)～9月23日(日)
- ⑦ 11月23日(金)～11月25日(日)

C. 講話 黙想(奉獻生活者のため)

5月26日(土)～6月3日(日) 松田 浩一 師(カルメル会)

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号)を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)



フォコラーレの夏のつどい マリアポリ

私たちはひとりで生きているのではなく
皆が「大きな一つの家族」であることが
この時期いっそう明らかになってきています。
今年のマリアポリでは「ひとりひとりの心をつなぎ、
支え合って歩む道」を共に深めたいと思います。



マリアポリでは、家庭的なあたたかい雰囲気の中ミサや祈り、
わかちあい、レクリエーションや散策のひとつもあります。

とき | 2012年7月14日(土) 12:30受付 13:30開始(昼食は各自済ませておこし下さい)
7月16日(月・祝) 昼食後 解散

ところ | 東照館：〒401-0502 山梨県南都留郡山中湖村平野210
TEL: 0555(65)8750 FAX: 0555(65)7793

問い合わせ・申し込み

下記の男子または女子フォコラーレセンターまでご連絡いただければ、申し込み書をお送りいたします。

- ・ 男子フォコラーレセンター：〒168-0071 杉並区高井戸西 1-11-4
TEL: 03(5370)6424 FAX: 03(5370)3055
- ・ 女子フォコラーレセンター：〒158-0094 世田谷区玉川 4-20-22
TEL: 03(3330)5619,03(3707)4018 FAX: 03(3707)4019
- ・ <http://focolare.world.cocacn.jp> (申込書ダウンロード可能)
- ・ Email: mariaopolijapan@gmail.com

参加費 | 大人18,000 / 学生14,500円 / 中学生13,000円
小学生12,000円 / 幼児(3才以上)6,500円

- ・ 7月4日(水)までに申し込み書に内金一人につき2,000円を添え、フォコラーレセンターまで郵送下さい。
- ・ 7月13日(金)午後3時から準備を始めています。お手伝い頂ける方はいらして下さい。(宿泊費 素泊まり 4,200円)
- * プログラムの中では、レクリエーションや自然に親しむひとときもありますので、ご希望の方は歩きやすい靴をご持参下さい。

交通

1. 新宿から高速バスで：新宿 → 山中湖 IC. → 山中湖 → 平野(約140分)
・ 京王子予約センター：03(5376)2222 ・ 富士急予約センター：0555(72)5111
2. 新宿から電車で：新宿(JR中央線120分→大月(富士急行50分)→富士吉田駅(バス35分)→平野

*バス停「平野」より、徒歩5分/駐車場もあります。

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて

—観想の祈りへの道—

日時： 7月25日（水）、 9月19日（水）

11月21日（水）、12月19日（水）

14：00～16：00

場所：イグナチオ教会信徒会館3Fアルペホール

12月のみマリア聖堂（ミサ有り）

アピラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります

*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原



九里彰神父（カルメル会日本管区長）

CWC（キリスト者婦人の集い）

カルメルの靈性に学ぶ

『完徳の道』

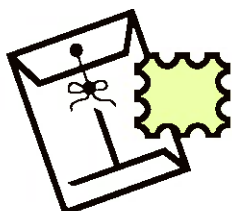
日時：7月24日（火）10：30～12：00

場所：真生会館

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

霊性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *



『霊性センターニュース』年間購読(郵送)のお申し込みを受け付けいたします。

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。
例：1月申込の場合は、2月号～12月号（8月号休刊除きます）
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

(※2013年通年の年間購読に関しましては後日、別途告知致します)

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1764

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

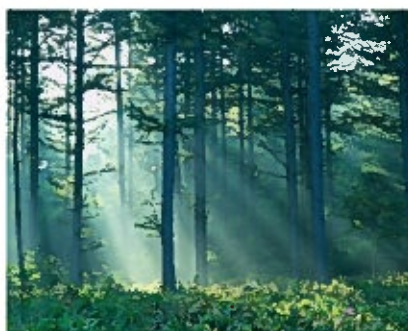
「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

先日、長野（泰阜）にある女子カルメル会を訪問した。名古屋から車を飛ばすと、休憩を取らなければ、二時間半もあれば着いてしまう。昔であれば山奥の山奥で、大変な時間がかかったであろうが、現在は、高速道路のおかげであつという間である。

その日は、梅雨の晴れ間で、さわやかな天気であった。長野に入ると、目の前に広がる自然の美しさに圧倒された。修道院は山の上。眼下には天竜川が流れ、対岸の山の上にも家が点在している。どことなく北イタリアやスイスの風景を思い起こさせた。

車を降りると、時間はゆったりと流れ、雲や山や木々や草花や畑が、さらには土や石までが、私に語りかけてくるような気がした。日本人は自然の中に神々を見出したが、それも至極当然のここのように思える。西欧では自然を被造物として創造主である神と切り離すが、神が自然を造られ、今もその存在を支えているのだとすれば、自然の中に神の現存を見ることは、ごく自然なことではないだろうか。主は、「空の鳥、野の花を見よ」と言われた。（P.九里）



***** 8月休刊のお知らせ *****

「霊性センターニュース」は、8月(号)休刊(7月送付無し)となります。
9月号は、8月下旬発送予定です。ご了承下さい。



~~~~製本／発送のご協力お願い~~~~

「霊性センターニュース」の製本／発送は、原則として毎月第四火曜日に行われます。  
作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。  
初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「9月号」製本日 8月28日(火)

上野毛教会信徒会館ホール1階

午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171